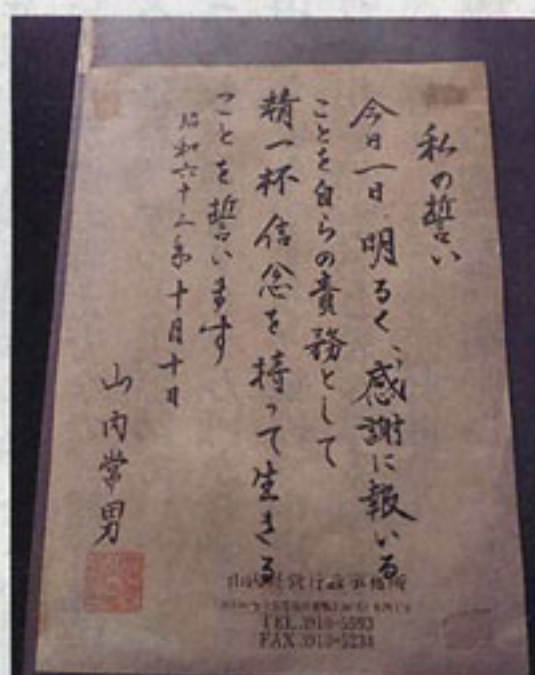


第6回

人生に定年なし! バンザイ! 生涯現役

山内さんは、依頼者に感謝の気持ちを伝えるため、丹精込めて絵手紙を書き、礼状やあいさつ状として送っている。「私は『先生』ではなく『あきんど』。お客さんの満足いくサービスをしたいし、仕事をさせていただいた感謝の気持ちを少しでも伝えたい」と語る。下の「私の誓い」は、山内さんが大切にしている信念



「仕事とは生きるといふこと」
39歳で独立してから30年間、
やめたいと思ったことは一秒もない

人生の軌跡

1938年、宮城県生まれ。生活の厳しい農家に育ち、商売での独立を志す。18歳で上京し、鉄工所に就職。働きながら工学専門学校と短大の夜学に通って独立を目指すも、椎間板ヘルニアを患い1年間入院。63年、重い物と無縁の商売を探るため、鉄工所を退職。その後、学習塾助手→輸入品セールス→スーパーの店長や化粧品販売→ショッピングセンターの企画→ハンドバッグや弁当の販売→スーパーの精肉部販売員など多数の職を経験。知人に商売への助言を求められるうちに、コンサル業に興味を持つ。その後、商工経営事務所の営業、行政書士事務所の補助者を経て、78年に行政書士事務所を開業。現在は法人化し、息子の隆司さんが代表に。自身は顧問として勤務。

「好きなことを続ける。それが長続きする秘訣ですよ」とほほ笑むのは、69歳の現役行政書士、山内常男さんだ。山内さんは39歳で独立するまでの間、三十余种もの職種を経験。長い道のりを経て、天職を得ることができた。

「高校卒業当時は就職難の時代。職業を選ぶ余裕もなく、鉄工所に就職しましたね。これを極めて独立しようと思力したんですが、力仕事のために椎間板ヘルニアになってしまったんです」

1年間の病院生活を経て、山内さんはより自分に合う職を探そうと考えた。「経験することで、その仕事が自分の性に合うか、商売として成り立つかわかると考え、興味を持った仕事に次々と挑戦しました。36歳の時に今の道へと歩み出しましたが、やっと本当に自分の好きな仕事が見つかったなと。



三十余种の職を経て天職を得た行政書士 山内常男さん・69歳

行政書士法人 日本許認可センター

●開業時期：1978年
東京都豊島区巣鴨3-16-13

探し続けた金鉱の鉱脈を掘り当てた気分でした。39歳で独立したけれど、遅いなんて全然思いません。回り道したからこそ、今がある。もし我慢して会社勤めをしていたら、こんなに長くは続かなかったんじゃないかな」

依頼者の相談を受け、各種の申請手続きを行うことが行政書士の仕事。山内さんは、「手続きによって依頼者の暮らしが豊かで安全なものになる」と考え、そこにやりがいを感じている。

「人の暮らしを支えている、世の中に貢献できるという大きな充実感があります。独立して30年間、辞めたいと思ったことは一秒もないですね。好きな仕事だからどんな難問もことごとく追求しようと思えるし、自分の潜在能力を思いっきり発揮できるのが楽しい。顧客先の企業も年々成長していくので、それに応じて自分も成長しなくてはなりません。難しい案件ほど達成感も大きい。お客さんが『よくやってくれた』と、自分の頑張りを評価してくれるのがうれしいんですよ」

山内さんの事務所には、依頼者からの礼状が、ところ狭しと飾られている。「ある遺産相続の手続きを終えたとき、仲たがいがいていたご兄弟それぞれから、お礼の手紙をもらって。うれしかったですね。仕事をさせてもらうということへの感謝の気持ちを大切に、一生懸命努力すれば、相手も応えてくれる。人のために生きて、自分自身もまた人に生かされているのだと喜びを感じます。私にとって仕事とは、生きるということそのものなんです。人生は一度きり。悔いなく過ごすため、死ぬまで仕事を続けるつもりです」